

相談援助の理論と方法Ⅲ

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 木村 匡登

■使用テキスト

社会福祉士養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉士養成講座第8巻 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』
中央法規出版 2015

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

本科目は「相談援助演習」や「相談援助実習」などと連結する重要な科目である。

社会福祉士および介護福祉士法改正によって「相談援助」＝「ソーシャルワーク」と位置づけられていると言っても過言ではない。ソーシャルワーカーである社会福祉士が行う業務について、理論的に整理し、具体的な方法を身につけていきましょう。

また、個人を対象とした個別援助技術（ケースワーク）のみではなく、家族、組織、地域というクライアントシステムに対するソーシャルワークの過程（プロセス）を、さまざまな実践モデルとアプローチから学んでいきましょう。

到達目標

- 1) 社会福祉援助活動における相談援助の本質を説明できる
- 2) ケースマネジメントの一連の展開過程を説明できる
- 3) ソーシャルワーク実践におけるコーディネーションとネットワーキングを説明できる
- 4) ソーシャルワーク実践における社会資源の活用・開発に資する知識・技術の基礎を理解し、説明することができる
- 5) ソーシャルワーク実践における多様なアプローチを多角的にとらえ、適切なアプローチを説明し、援助活動に必要なアプローチを選択することができる

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 相談援助における対象の理解

この章のポイント

「相談援助」を社会福祉援助活動としてとらえ、その対象領域をどのような観点から、どのようにとらえるのかについて考えましょう。そして、相談援助の対象を理解することにより、「社会福祉における相談援助とは何か」、その本質と意義について検討しましょう。

第2章 ケースマネジメント（ケアマネジメント）

この章のポイント

対人サービスを仕事とする者にとって、いまやケースマネジメントの考え方や技術を避けて通ることができなくなりました。これは、高齢者のもとより、さまざまなクライアントに対して応用できる考え方や技術です。ここでは、ケースマネジメントの過程（プロセス）や特徴を整理しましょう。

第3章 グループを活用した相談援助

この章のポイント

グループ（集団）は、人間にとっては欠くことのできない社会的環境の一つであり、個人の思想や行動、態度、暮らしや人生に大きな影響を与えるものです。グループワークは、こうしたグループを意図的に活用し、一人ひとりの成長や問題解決を図ろうとするものです。グループワークの過程（プロセス）を学び、さらに、自助組織（セルフヘルプグループ）への援助のあり方を考えましょう。

第4章 コーディネーションとネットワーキング

この章のポイント

各主体間のチームアプローチとしての連携や協働の考え方を、ケアマネジメントと中核的技術であるコーディネーションとして学びましょう。また、ネットワーキングについて「マイクロレベル」「メゾレベル」「マクロレベル」で整理していきましょう。

第5章 相談援助における社会資源の活用・調整・開発

この章のポイント

社会資源の種類について学びましょう。それぞれの特徴を学ぶとともに、こうした社会資源を活用することがクライアントのニーズの充足にどのように関係するのかを検討しましょう。さらには、社会資源の整備が不十分な場合に社会資源の開発に関わるソーシャルアクションについて身につけていきましょう。

第6章 様々な実践モデルとアプローチⅠ

この章のポイント

モデル、アプローチの分化や多様化を整理し、ジェネラリストソーシャルワークの展開過程を学びましょう。

第7章 様々な実践モデルとアプローチⅡ

この章のポイント

次の6つのアプローチについて、その起源や支援展開などを学びましょう。

- ① 心理社会的アプローチ ③ 問題解決アプローチ ⑤ 危機介入アプローチ
- ② 機能的アプローチ ④ 課題中心アプローチ ⑥ 行動変容アプローチ

第8章 様々な実践モデルとアプローチⅢ

この章のポイント

エンパワメントアプローチやナラティブアプローチの特徴を理解し、実践で応用できる方法を考えましょう。また、アプローチをめぐる課題について考えてみましょう。